

SAMPLE

特集レポート No. 091

事業承継ニーズの増加とM&A仲介市場の成長

Strictly Confidential



2021年1月29日

はじめに

- 団塊の世代が引退を迎える中、業界を問わず事業承継のニーズが高まっている。従来は親族内の事業承継(同族承継)が一般的であったが、現在は第三者への事業承継(第三者承継)が主流となりつつある。
- このような状況の中で、M&A仲介を行う企業が急成長を遂げている。M&A仲介企業は譲渡希望会社、譲受希望会社の間に入り、個別相談から最終契約まで一気通貫での支援を行う。代表的な企業としては日本M&AセンターやM&Aキャピタルパートナーズが挙げられる。
- 本レポートでは、事業承継ニーズの増加にともない急成長を遂げたM&A仲介市場を取り扱う。主要なM&A仲介会社の取り組みを通じて市場が拡大してきたプロセス理解のための一助としたい。

本資料の流れ

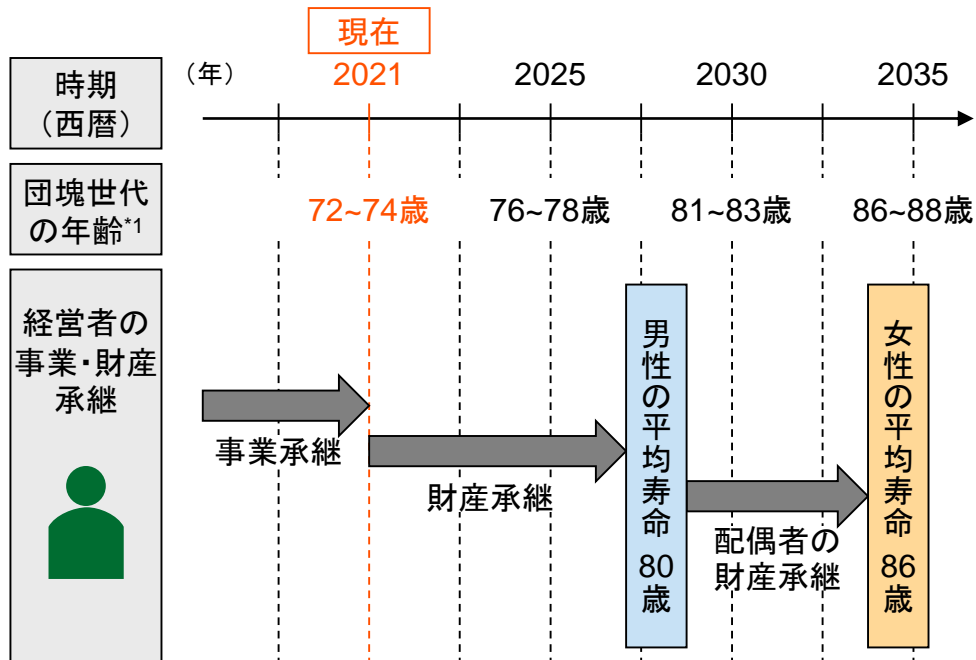


- I. 事業承継ニーズとM&A仲介市場
- II. M&A仲介市場の主要プレイヤー
- III. M&A仲介市場の今後の展望

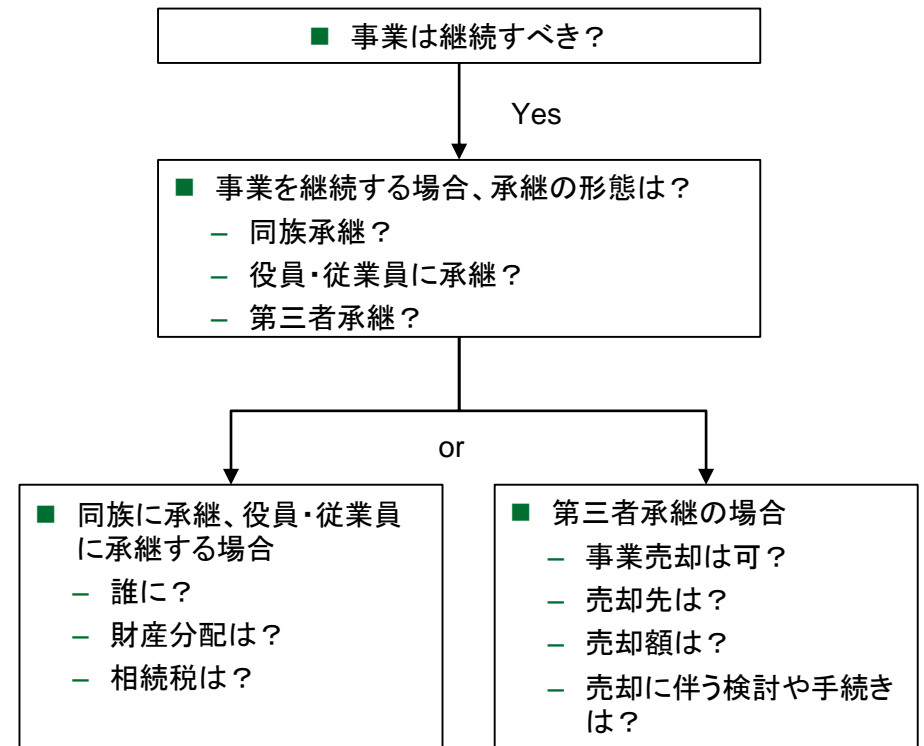
事業承継のタイミングを迎える団塊世代の経営者

- 近年は人口が集中している団塊世代の経営者が事業承継を行うピークの時期にきている
- 第三者承継は近年では有力な選択肢

団塊世代の経営者の事業・財産承継の時期



事業継承でオーナー経営者が求められる意思決定



注: *1. 団塊世代は1947年~1949年生まれとしている

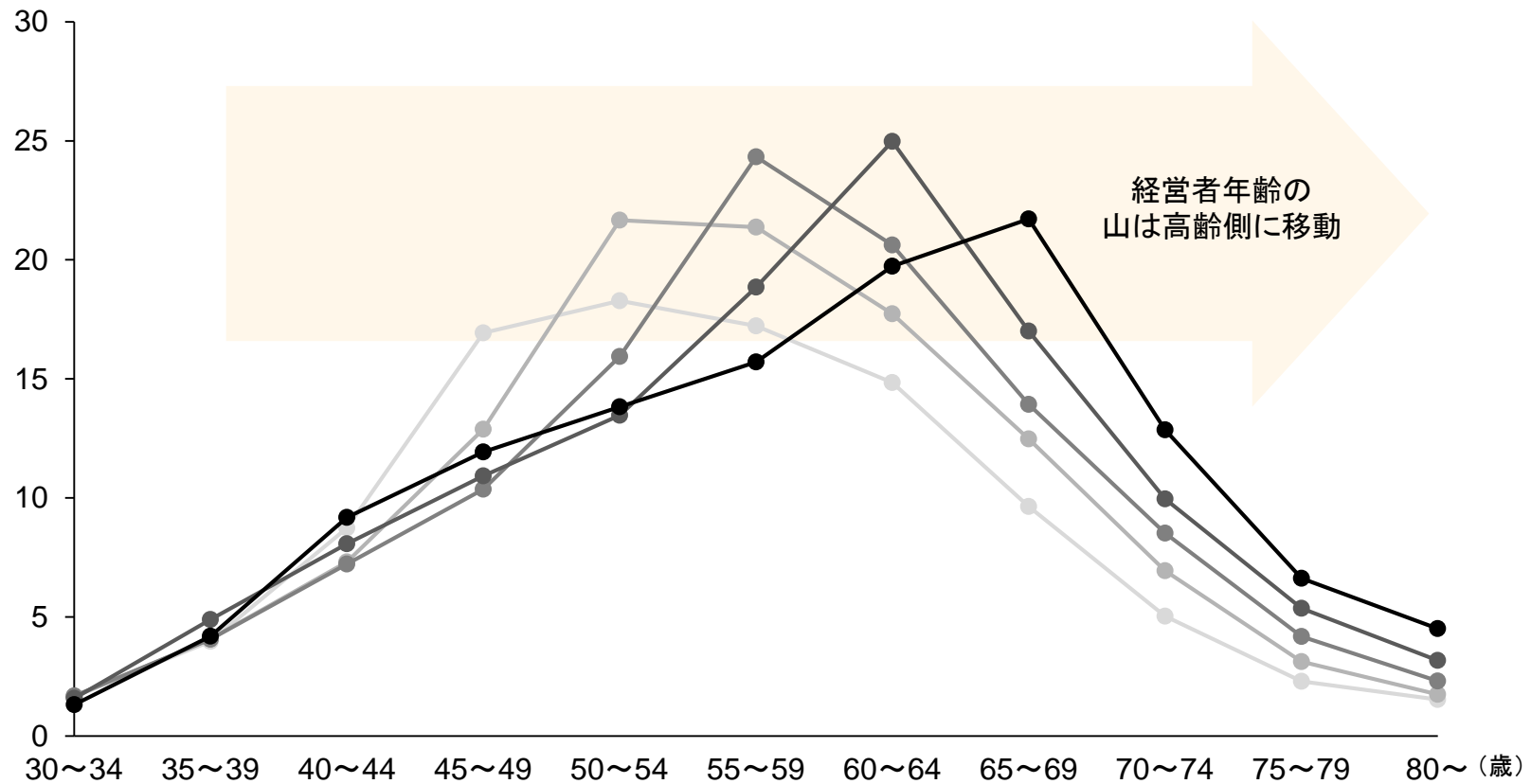
中小企業の経営者年齢の分布変化

- 2015年時点での経営者年齢の分布がもっとも多いのは65～69歳
 - 分布の推移より2021年現在の経営者年齢の山はより高齢化していると推測される

年齢別に見た中小企業の経営者年齢の分布

(単位: 万人)

● 1995年 ● 2000年 ● 2005年 ● 2010年 ● 2015年

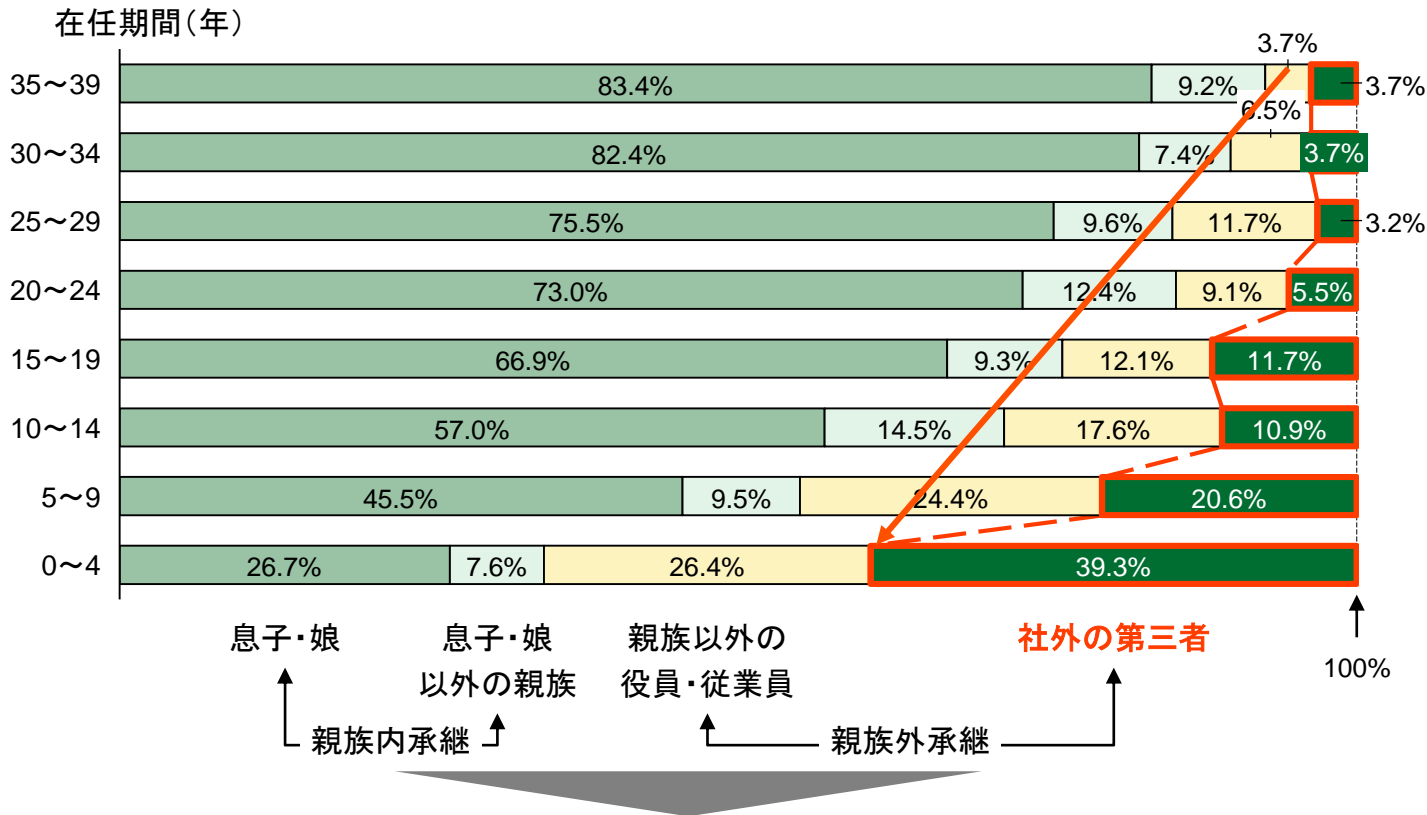


高まる第三者承継ニーズ

- 在任期間が短い経営者ほど、第三者承継の割合が高い。つまり最近おこなわれた事業承継においては第三者承継が増加している

現在の経営者の在任期間別の承継方法

第三者承継のニーズが高まる背景



事業環境激化

- 規制緩和やグローバル化の進展
- 大企業による業界再編
- 人口減少により収縮する国内マーケット
- 商品・サービスのライフサイクルの変化

等



親族内の後継者難

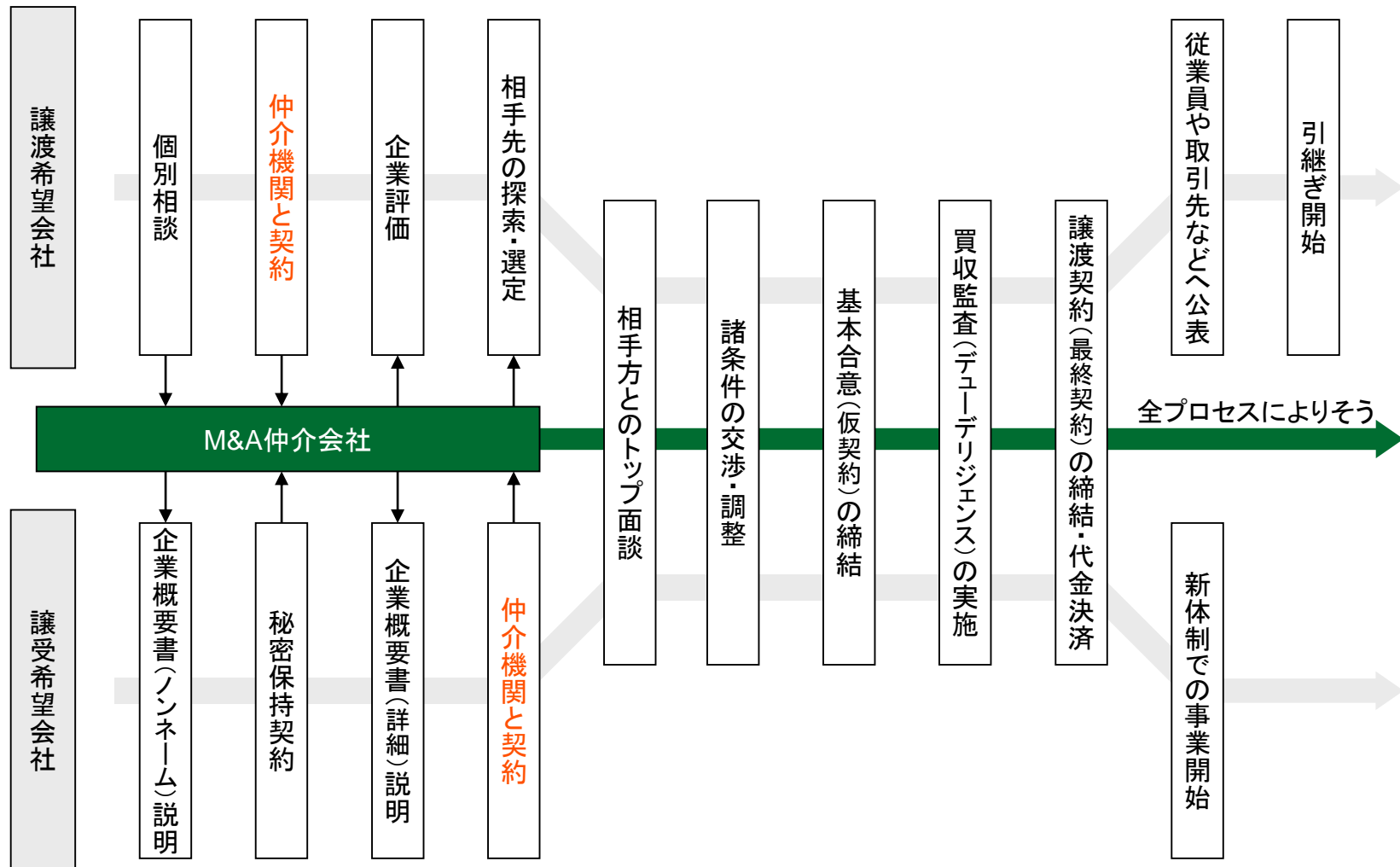
- 親族内承継の場合、最高税率55%と高い相続税・贈与税
- 同族関係者の相続意識の低下
- 同族関係者の経営能力の不足

等

近年の事業承継では第三者承継が急激に増加している

事業承継のプロセス

- 事業承継は譲渡企業の相談から始まるのが一般的となっている
- M&A仲介会社が譲渡希望会社、譲受希望会社の間に入り、個別相談から最終契約まで支援を行うケースが多い



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

